

清流

題字：芳野 充

令和3年3月30日
第51号

発行所 加来不動産㈱
発行者 加来 寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

こんなときこそ「和顔」

「いつもニッコリ」。ビジネスダイアリー（手帳）の表紙をひらくと、わたしの字で大きくそう書いてあります。また、その下にはやはり手書きで笑顔のイラストも。ここ十年ちかくビジネスダイアリーには同じことをくり返し記してきました。わたしが人生の師とおおぐ素心学塾塾長の池田繁美先生が、このようにしていることを知り、勝手にながら範とさせていたただいております。

品性を豊かにするための「二十の徳目」の八番目は、「和顔」です。「和顔」とは、柔和なほほえみのある表情を言います。朝、ニッコリした笑顔であいさつするだけで、相手に安心や喜びを与えられますし、笑顔を見ると、心がほっこりします。逆に、朝から無表情・不愛想な顔であいさつすると、相手を不安にさせたり、不快にさせたりすることになります。わたしも体調がすぐれない日や色んな悩みが消化できない日もあります。しかし「どんなときでも朝は笑顔であいさつしよう」と覚悟を決めて取り組んでいます。

いま世間はコロナの影響で何かと暗い話題を耳にします。緊急事態宣言を再延長するのかわるか、あいまいな政府の対応に不信感をつのらせる飲食店や観光業界の従業員・経営者たち。オリンピック・パラリンピック組織委員会会長が女性蔑視発言によって辞任し、大会ボランティアや聖火ランナーたちも辞退との報道。そもそもオリンピックが開催できるかどうかわか、と是非を問うテレビ番組。ようやくワクチン接種が開始されたものの、コロナ変異株には効果がうすい、との情報が錯々する紙面。思わず顔をしかめたくくなりますが、その顔のほとんどはマスクでおおわれ、表情が伝わりづらい時代になりました。

しかし、こんなときこそ「和顔」が必要とされるのではないのでしょうか。暗いニュースや先行き不安で顔をしかめても、何かが決まるわけではありません。それよりも、マスク越しから柔和なほほえみがこぼれるくらいの表情で相手と応対する。それを目にした相手はきっと、安心や喜びを感じるはずです。

わたしも経営上のことやそれ以外のことで、さまざまな問題に頭を悩ます日々です。ビジネスダイアリーの表紙に書いてある「いつもニッコリ」の文字とイラストに目をやり、こんなときこそ和顔がためされるとき、と自分に喝をいれ、今日も鏡の前でニッコリ和顔をこころみています。いつもニッコリ、いつもニッコリ。

加来 寛

